



がんばろう！東北

資料－8

東北のインフラの現状と展望

平成26年12月15日
東北圏広域地方計画推進室

進む施設の老朽化

高度成長期以降に整備された道路橋、トンネル、河川、下水道、港湾等について、今後20年で建設後50年以上経過する施設の割合が加速度的に高くなる。

※施設の老朽化の状況は、建設年度で一律に決まるのではなく、立地環境や維持管理の状況等によって異なるが、ここでは便宜的に建設後50年で整理。

建設後50年以上経過する社会資本の割合

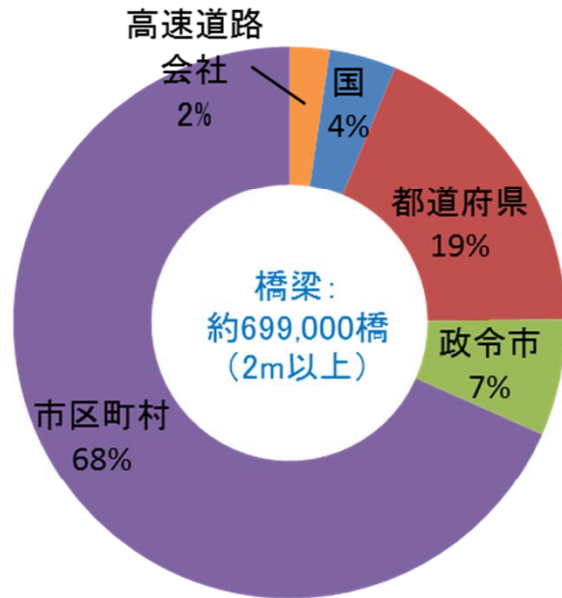
	H25年3月	H35年3月	H45年3月
道路橋 [約40万橋 ^{注1)} (橋長2m以上の橋約70万のうち)]	約18%	約43%	約67%
トンネル [約1万本 ^{注2)}]	約20%	約34%	約50%
河川管理施設(水門等) [約1万施設 ^{注3)}]	約25%	約43%	約64%
下水道管渠 [総延長:約45万km ^{注4)}]	約2%	約9%	約24%
港湾岸壁 [約5千施設 ^{注5)} (水深-4.5m以深)]	約8%	約32%	約58%

- 注1) 建設年度不明橋梁の約30万橋については、割合の算出にあたり除いている。
- 注2) 建設年度不明トンネルの約250本については、割合の算出にあたり除いている。
- 注3) 国管理の施設のみ。建設年度が不明な約1,000施設を含む。(50年以内に整備された施設については概ね記録が存在していることから、建設年度が不明な施設は約50年以上経過した施設として整理している。)
- 注4) 建設年度が不明な約1万5千kmを含む。(30年以内に布設された管きょについては概ね記録が存在していることから、建設年度が不明な施設は約30年以上経過した施設として整理し、記録が確認できる経過年数毎の整備延長割合により不明な施設の整備延長を按分し、計上している。)
- 注5) 建設年度不明岸壁の約100施設については、割合の算出にあたり除いている。

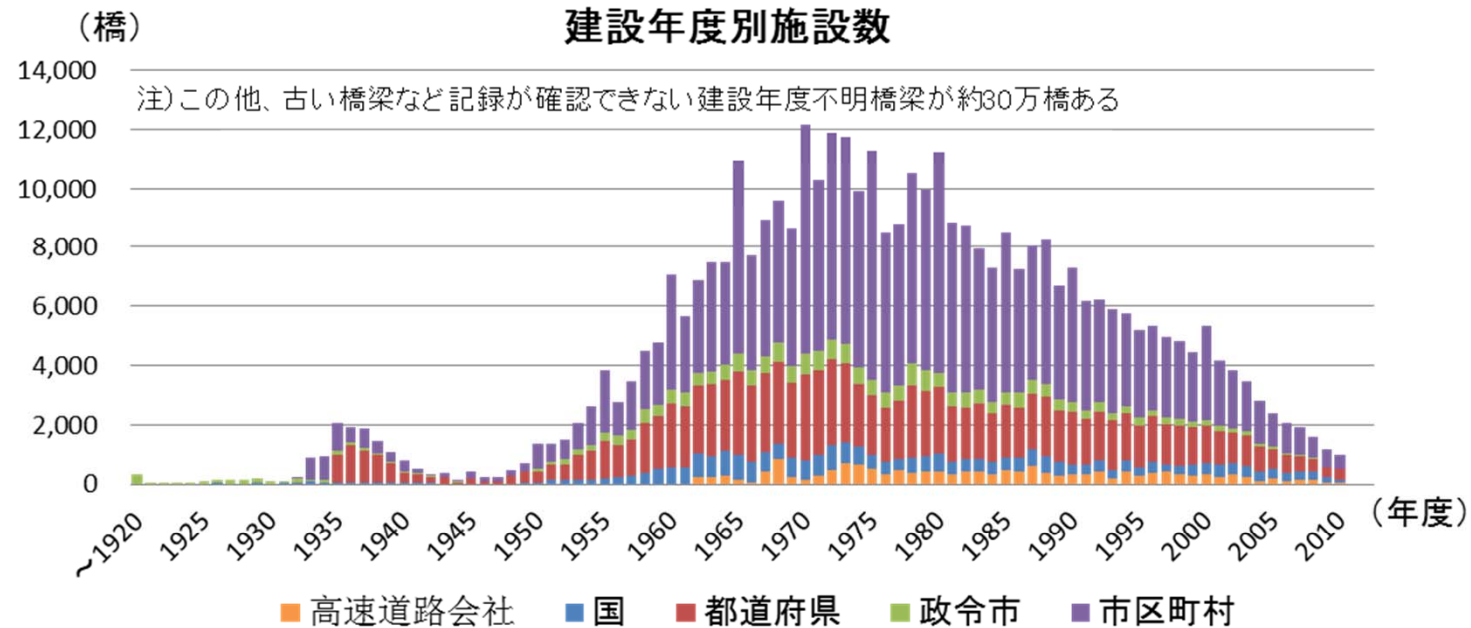
高齡化を迎える道路橋〔全国〕（橋梁～橋長2m以上～）

※東日本大震災の被災地域は一部含まず
※都道府県・政令市は、地方道路公社を含む

道路管理者別ごとの施設数



建設年度別施設数



※2011～2012年度はデータ未集計

平均年齢: 29年

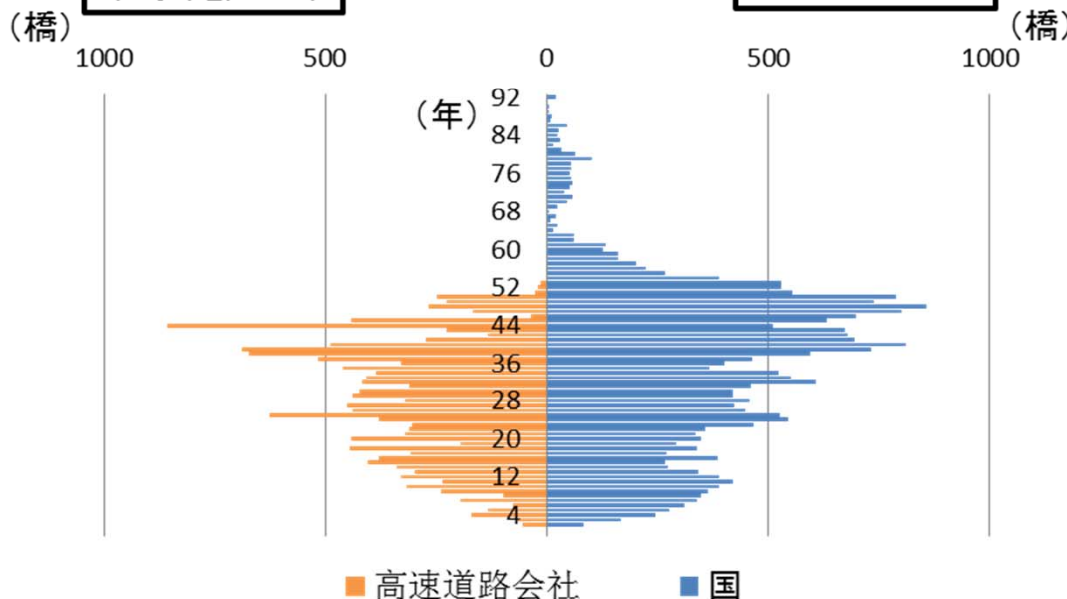
ストックピラミッド

平均年齢: 35年

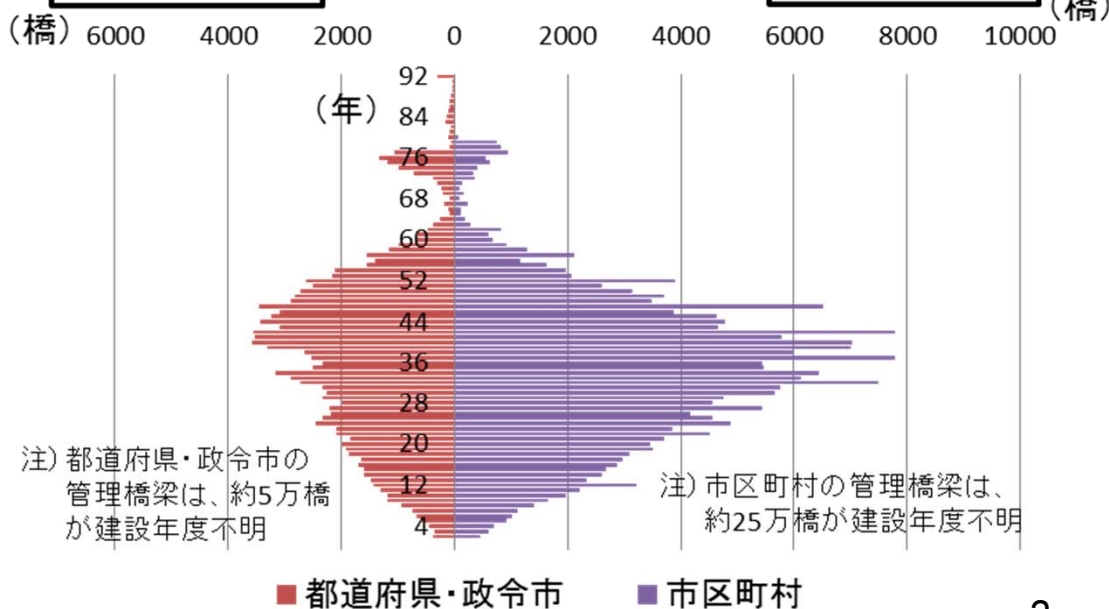
平均年齢: 38年

ストックピラミッド

平均年齢: 35年



注) 平均年齢は、建設年度が把握されている施設の平均

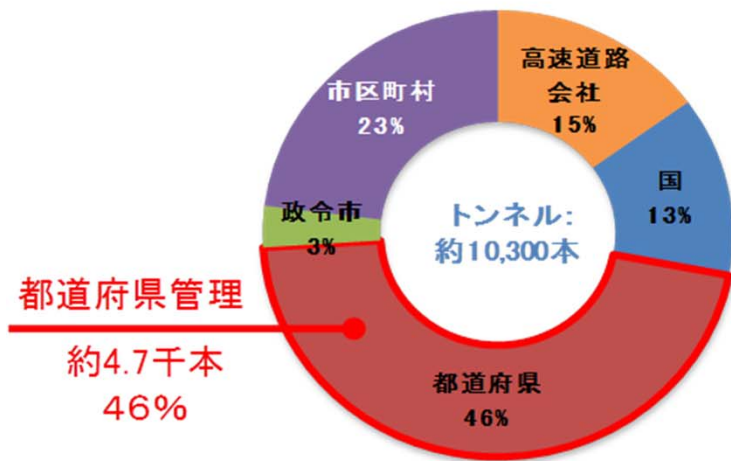


出典: 国土交通省調べ

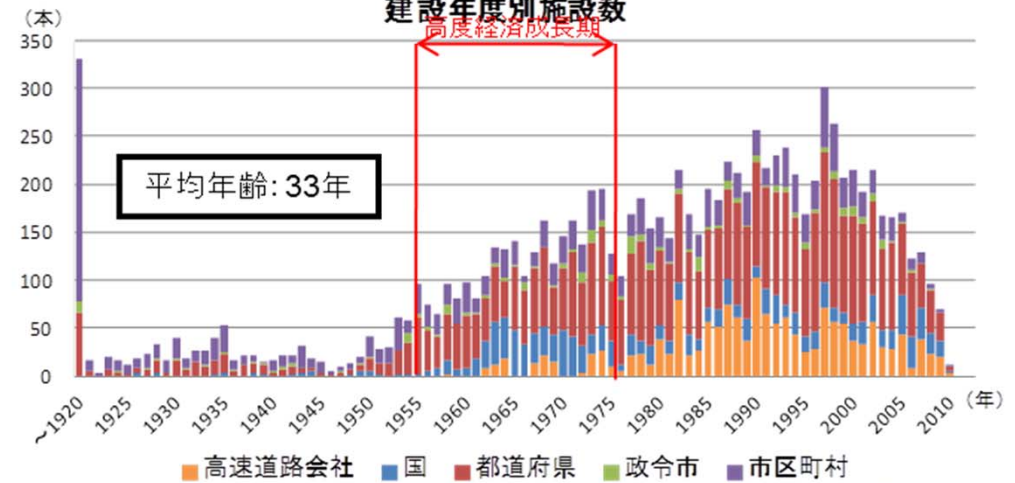
高齢化を迎える道路トンネル〔全国〕

○ 道路トンネルは1万本を超え、高度経済成長期以降に多く建設。都道府県管理が約5割を占める。

道路管理者別ごとの施設数



建設年度別施設数



注) この他、古いトンネルなど記録が確認できない

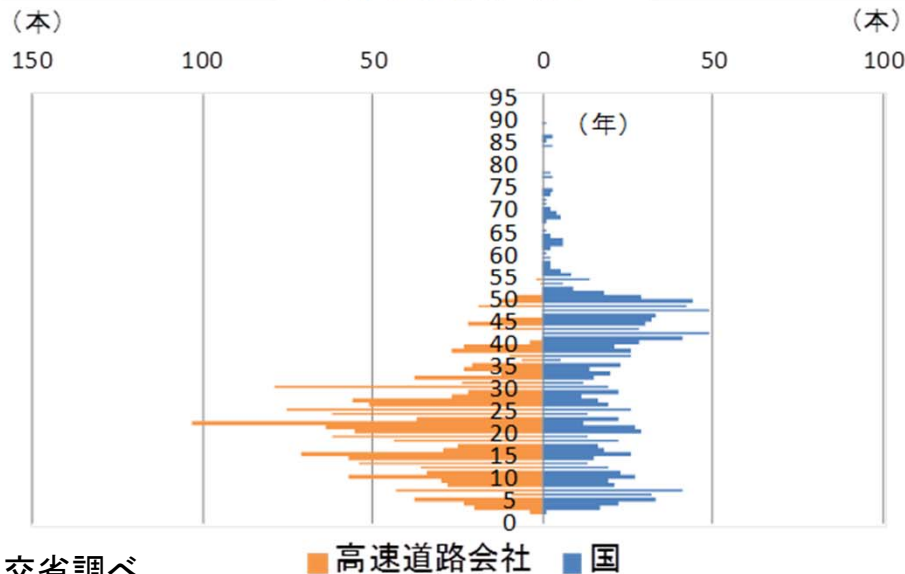
※2011～2012年はデータ無し

建設年度不明トンネルが約250本ある

平均年齢: 22年

ストックピラミッド

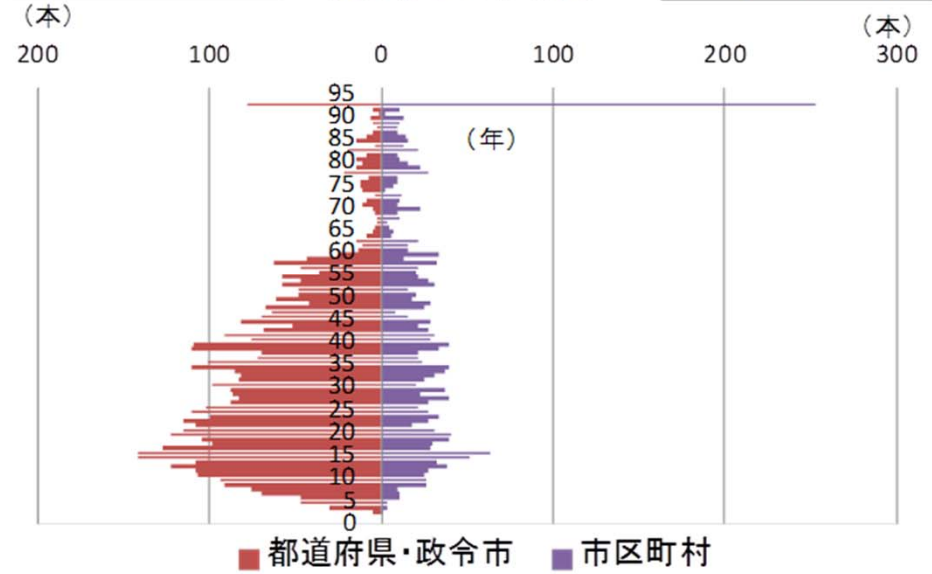
平均年齢: 32年



平均年齢: 32年

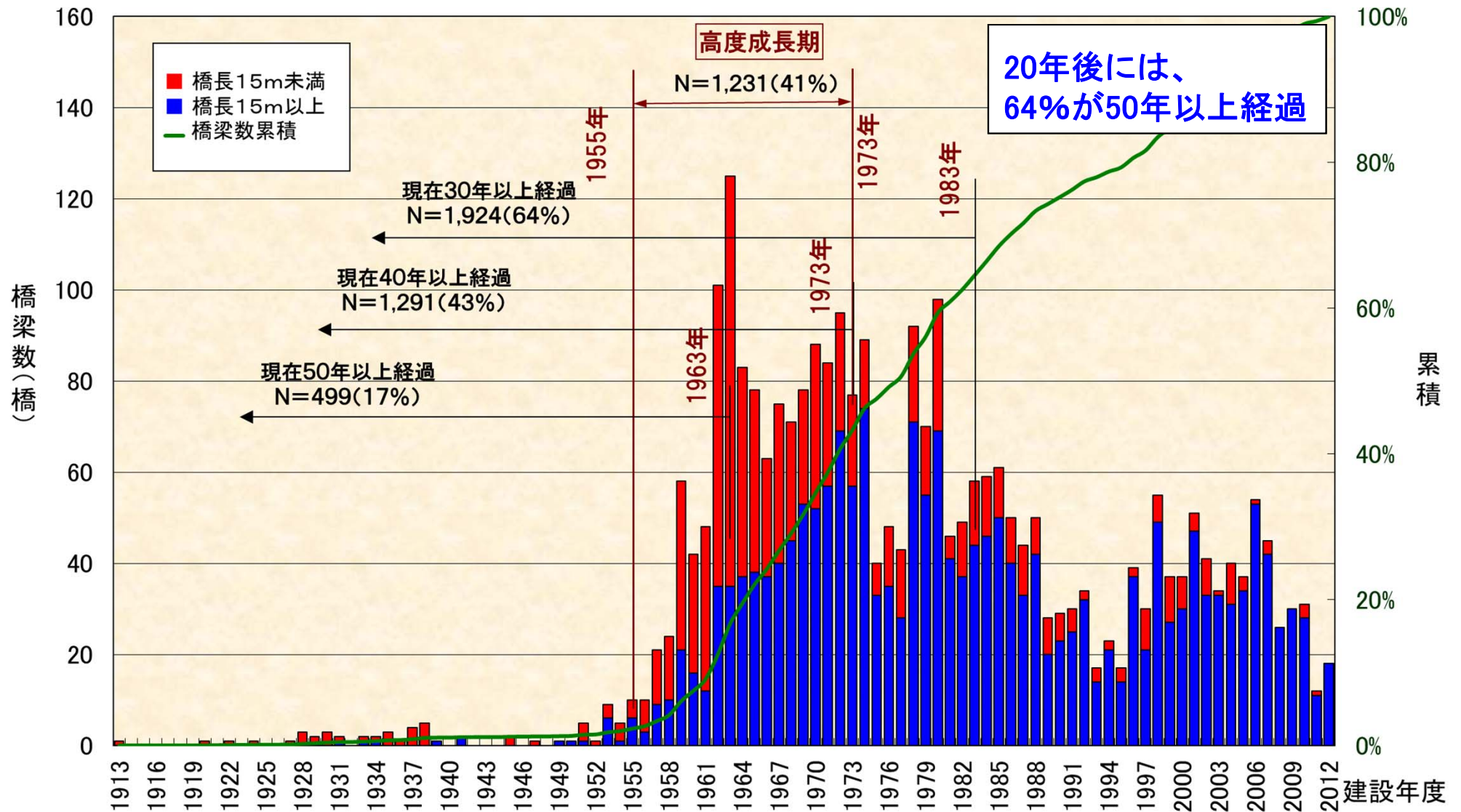
ストックピラミッド

平均年齢: 46年



高齢化を迎える道路橋〔東北〕

- 高度経済成長期と言われる1955年～1973年にかけて全体の約4割、1,231橋が建設。
(全2,983橋)
- 今後、橋梁の高齢化が一斉に進み、大規模な補修や更新が一時期に集中することが懸念。



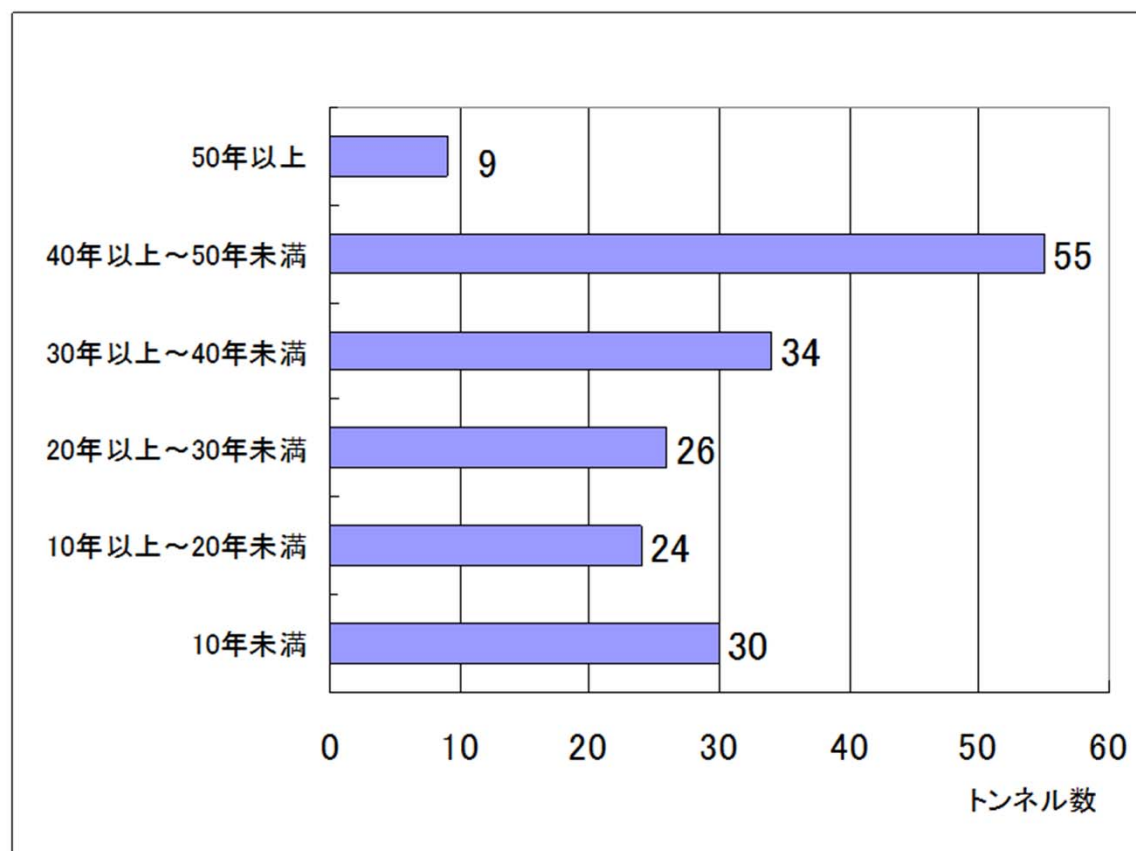
図一 建設年度別の橋梁数(H25.4.1現在)

高齢化を迎える道路トンネル〔東北〕

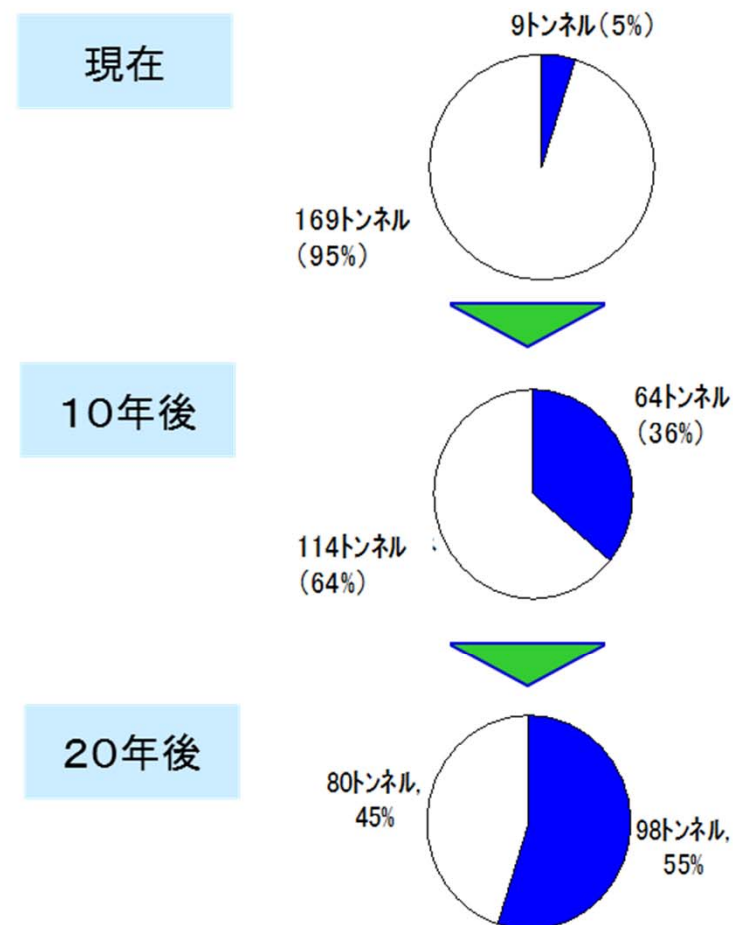
- 東北地方整備局が管理する東北地方整備局が管理するトンネルは「178」。
- 20年後に、建設から50年以上経過するトンネルは「98」(55%)に増加。

(平成24年4月現在)

■建設からの経過年数



■建設から50年以上経過するトンネルの推移



道路の老朽化対策の本格実施に関する提言

(H26.4.14 社会資本整備審議会 道路分科会)

I. 最後の警告 今すぐ本格的なメンテナンスに舵を切れ

静かに危機は進行している

すでに警鐘は鳴らされてる

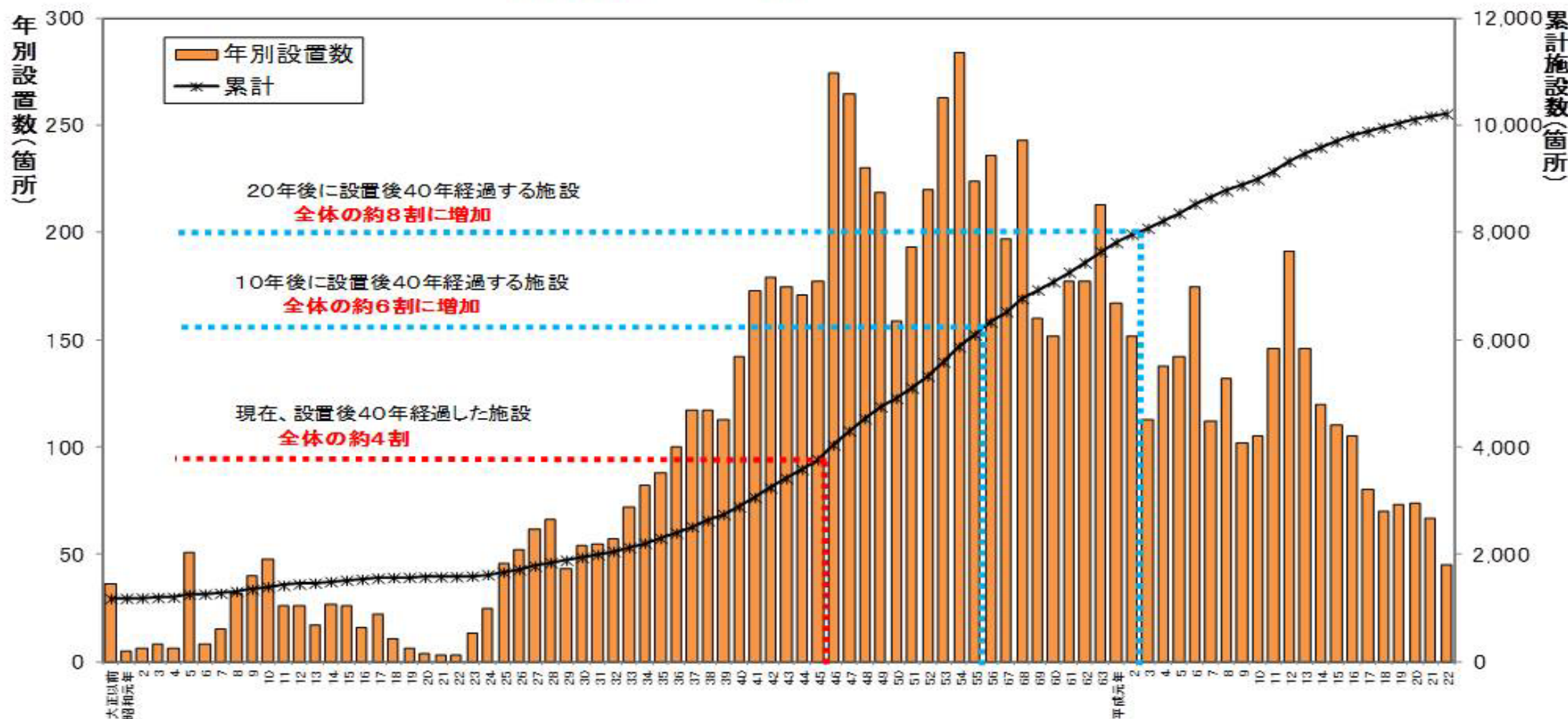
行動を起こす最後の機会は今

- ・国は「道路管理者に対して厳しく点検を義務化」
- ・「産学官の予算・人材・技術のリソースをすべて投入する総力戦の体制を構築」
- ・「政治、報道関係、世論の理解と支持を得る努力」を実行するよう提言

1. 全国の直轄河川管理施設の老朽化状況

1

- 全国的には高度成長期以降に整備した河川管理施設が老朽化
- 現在、設置後40年を経過した施設は全体の約4割（10年後に約6割→20年後に約8割が設置後40年以上経過施設）



1. 東北地整が管理する樋門樋管の老朽化状況

2

- 東北地整が管理する施設のうち、50年以上経過した施設は全体の1/3を占める。(図1 青い棒グラフ)
- 東北地整が管理する施設の平均年齢は40歳(昭和49年)である。(現在管理している施設の平均年齢)

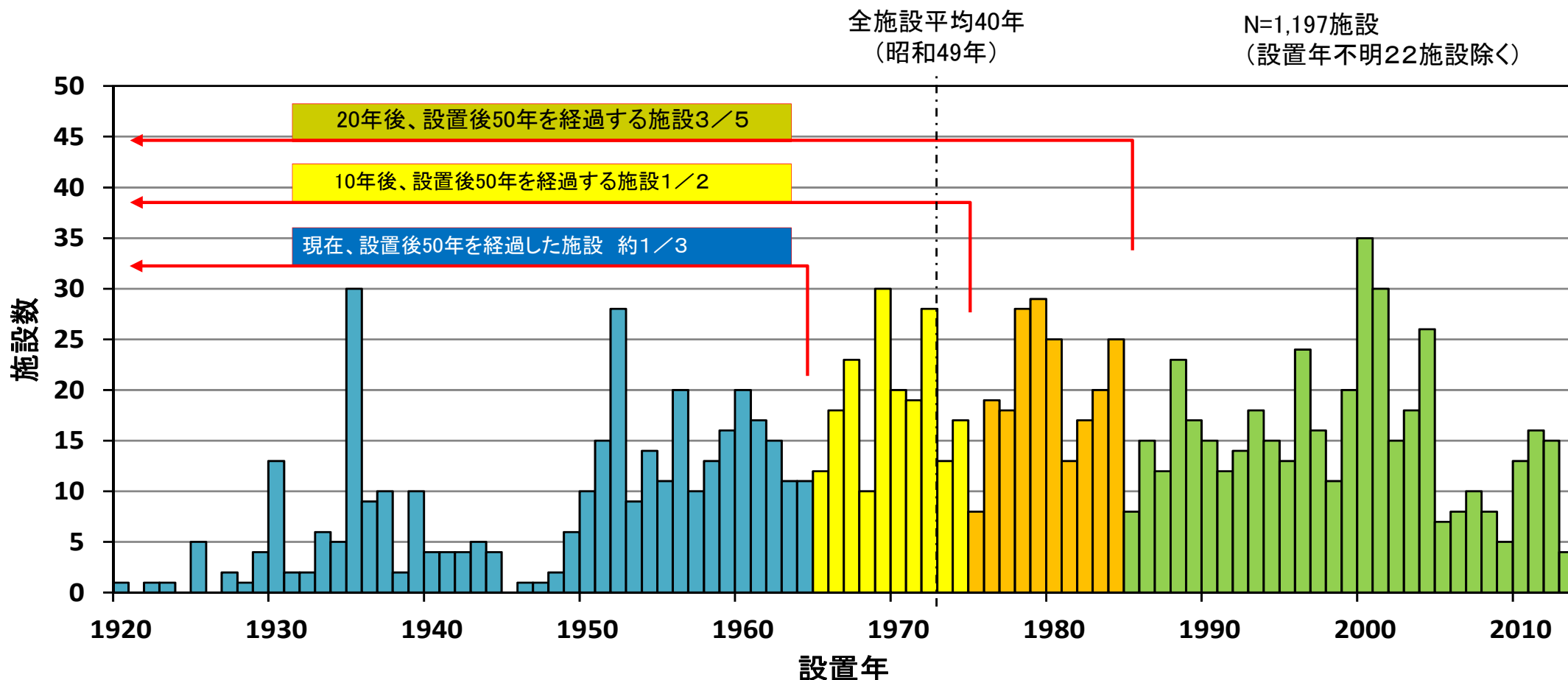


図1 老朽化が進む樋門樋管の状況(東北地整が管理する施設)